

クワンフット

《自動車用薬液噴射装置》

乗用車用

取り付け要領書

はじめにお読みください

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

東北海道いすゞ自動車株式会社

ごあいさつ

この度、自動車用薬液噴射装置【クリンフット】をお買い上げいただきありがとうございます。
この取り付け要領書には薬液噴射装置の取り付け作業における確認事項と作業手順および注意事項について記述してあります。
作業を始める前に本書をよく読んでいただき、内容をよく理解した上で作業に取り掛かってください。

保証について

キットの各部品の品質保証は東北海道いすゞ自動車株式会社が行います。
キット部品の製造上の不良についてはキット購入後1年間を期限として無償交換いたします。
取り付け作業にかかわる部分の品質保障はその作業を実施したところで行ってください。
取り付け作業に起因する各部品の破損・汚染・品質の劣化などによる部品の交換は、作業を実施したところで負担してください。

エンドユーザーへの説明のお願い

エンドユーザーへの装置の説明は取り付け作業を実施したところで、同梱の取扱説明書を手渡し、あらかじめその内容を理解した上で確実に行ってください。
使用方法及び取り付けの状態について説明してください。

尚、品質・性能向上のため、キット部品の変更を行う場合があります。その際、本書の内容と一部異なる場合がありますのでご了承ください。

1. はじめに	1
2. 目次	2
3. 装置の概要	3
4. 取り付けの手順		
4-1 取り付け場所の決定	4
4-2 タンク台の取り付け	4
4-3 噴射ノズルの取り付け	5
4-4 チューブの配管	7
4-5 スイッチの取り付け	8
4-6 電気の配線	8
5. ご使用にあたっての注意	9

3. 装置の概要

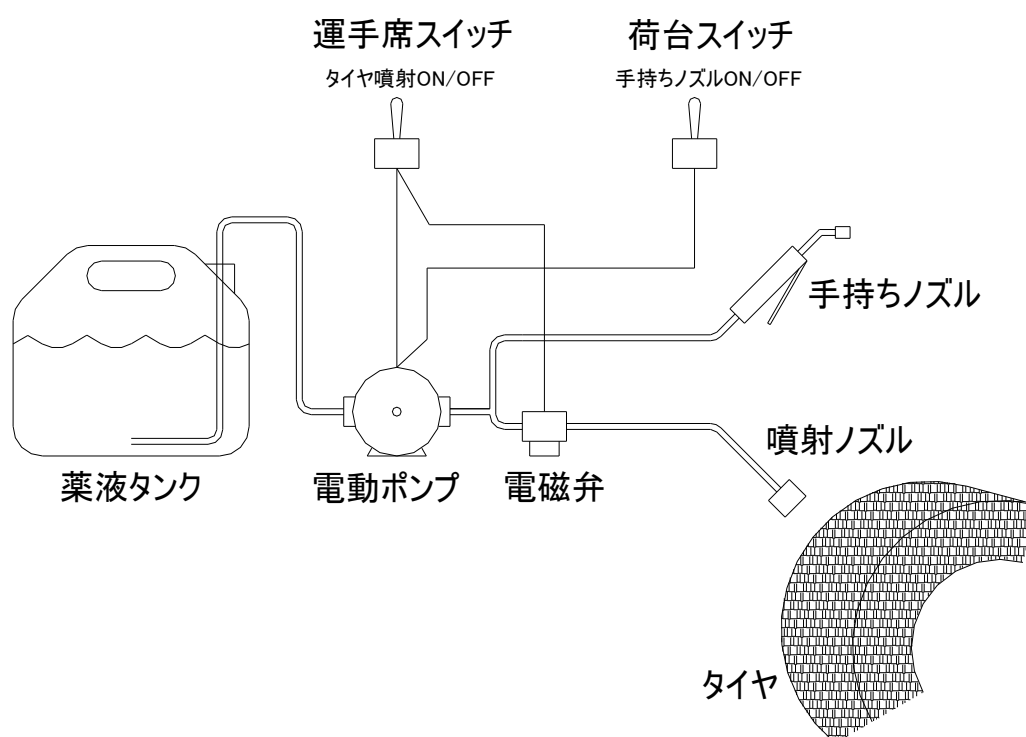
3-1 装置の特徴

本装置は、運転席に乗ったままスイッチを操作して車を少し動かすだけで、タイヤに薬液をかける作業ができるため、自動車のタイヤ消毒作業が軽減できます。

重量は装置・薬液・ブラケット類を含めて約30キログラムです。ほとんどの場合陸運支局への申請などは必要ありません。(帯広陸運支局で確認済み)

ただし、見解の異なる場合もありますので管轄の陸運支局へお問い合わせください。

3-2 装置の構成



4-1 取り付け場所の決定

薬液タンク は薬液の注入、残液の排出や清掃など、毎日扱うものです。エンドユーザーと一緒に使って使い易い位置を考え、取り付ける場所を決めることをお勧めします。

4-2 タンク台の取り付け

車両の荷台など必要なスペースを確保し、タンク台を据えてください。転倒などの恐れがあるときは、タンク台ごと車両に固定してください。

取り付け上の注意

※消毒液の注入の妨げにならないよう、障害物に当たらないように取り付けてください。



注 意

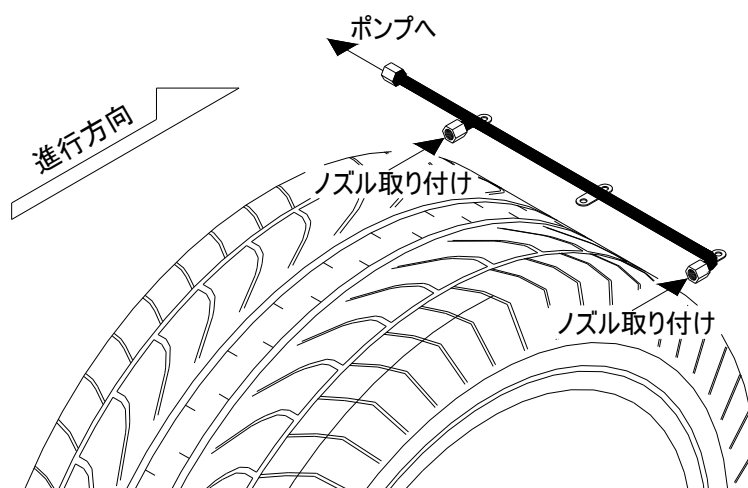
タンク台は、実際の使用時には薬液を満載した状態で 30 キログラム程の重量になります。転倒・脱落等の危険のないよう、十分な強度をもって固定してください。

4. 取り付けの手順

4-3 噴射ノズルの取り付け

下図のように専用ノズルホルダーを取り付けます。

- ノズルホルダーは手で曲げることができますので、タイヤハウス内側の形状に合わせて曲げて取り付けてください。
※あまり急激に曲げすぎたり、何度も折り曲げを繰り返すと折れてしまいますのでご注意ください。
- ノズルホルダーは右側タイヤ用(2本)と左側タイヤ用(2本)があります。下図を参考に間違いのないよう取り付けてください。



ノズルホルダーのボルト止め

ボルト止め金具を下記の通り2種類同梱しております。適したものをご使用ください。

取り付け箇所が樹脂製の場合

→ボードファスナーをお使いください



9mmの穴あけ加工が必要です。

取り付け箇所が金属製の場合

→リベットナットをお使いください



7mmの穴あけ加工が必要です。

専用工具(ナッター)が必要です。

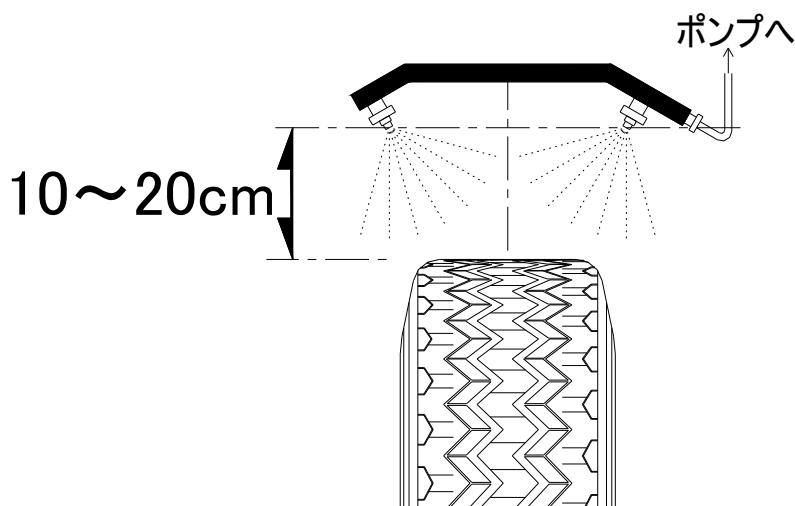


4. 取り付けの手順

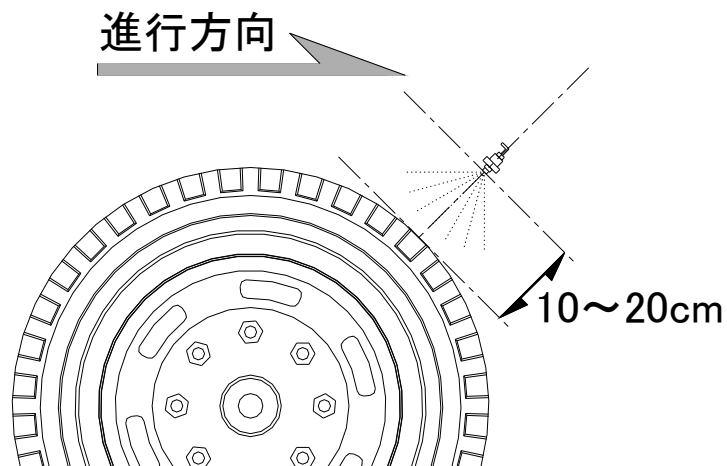
理想的なノズルの取り付け位置は下記の通りです。

車両に合わせて、できるだけ下図に近い位置でノズルの取り付け位置を選定してください。

1. タイヤのトレッド面に対し斜めから吹き付けるようにしてください。



2. 横から見たときにタイヤの前面から吹き付けられるようにしてください。



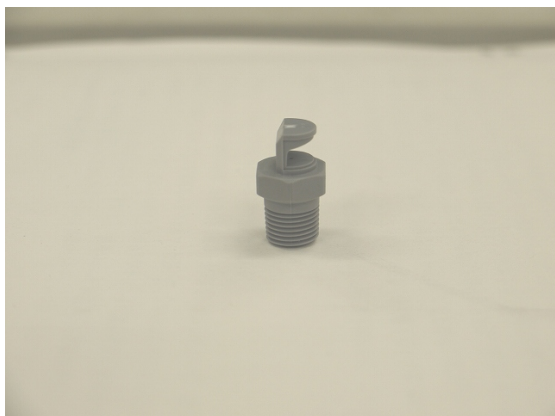
重 要 取り付け位置やノズルの向きが悪いと、噴射口に泥などが逆流し、ノズル詰まりをおこし噴射能力の低下につながります。

4. 取り付けの手順

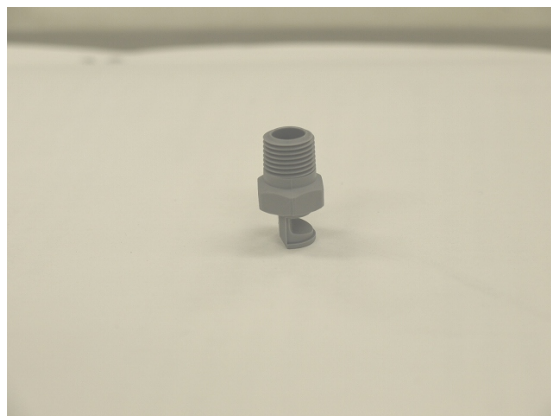
ノズル取り付けの参考例



ノズルの向き



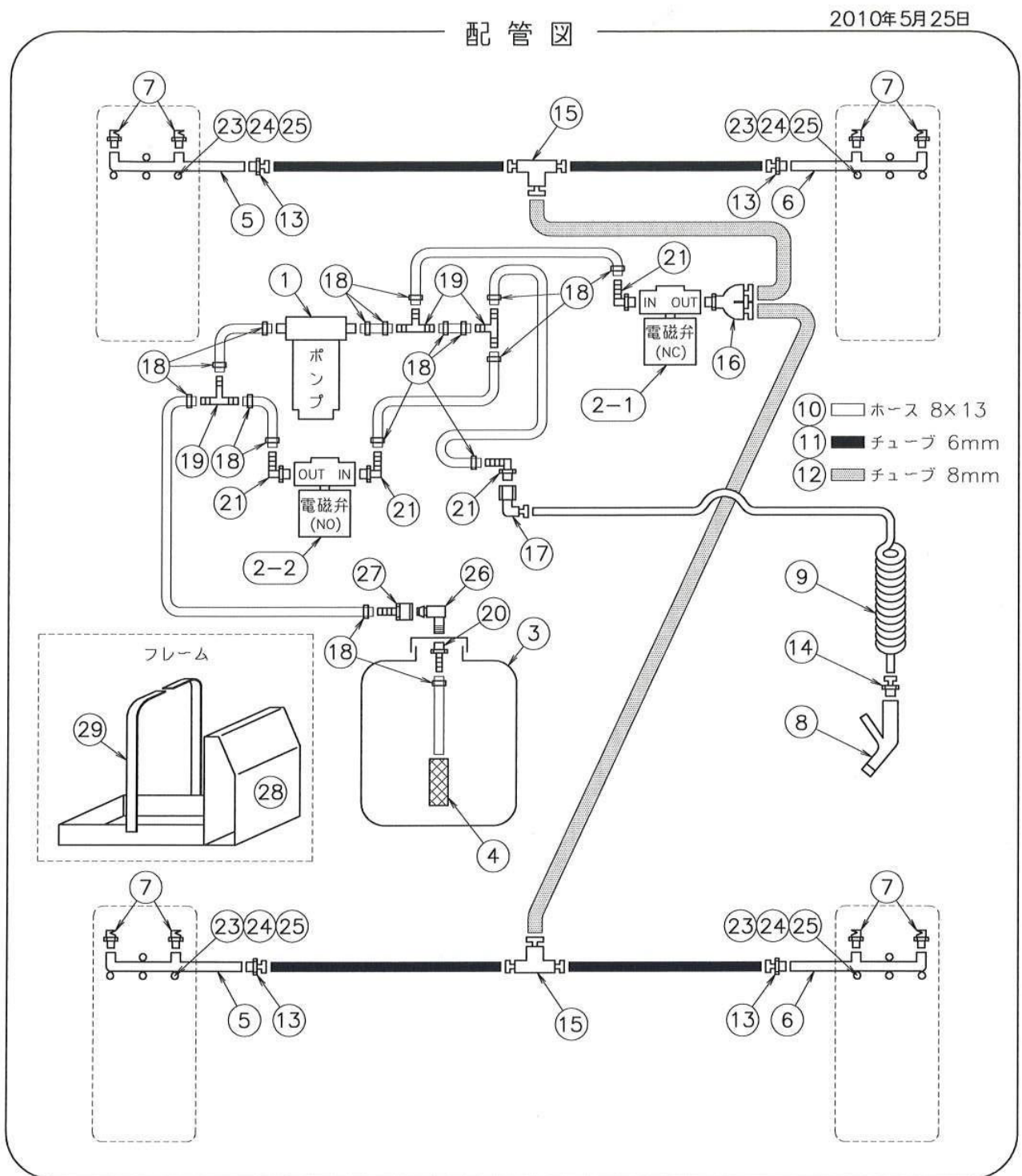
間違ったノズルの向き



正しいノズルの向き

4. 取り付けの手順

4-4 チューブの配管



4. 取り付けの手順

4-5 スイッチの取り付け

1. 電源スイッチは、運転席から操作のできる場所で、なおかつ不用意にスイッチにさわらない場所、運転の妨げにならない場所に取り付けてください。

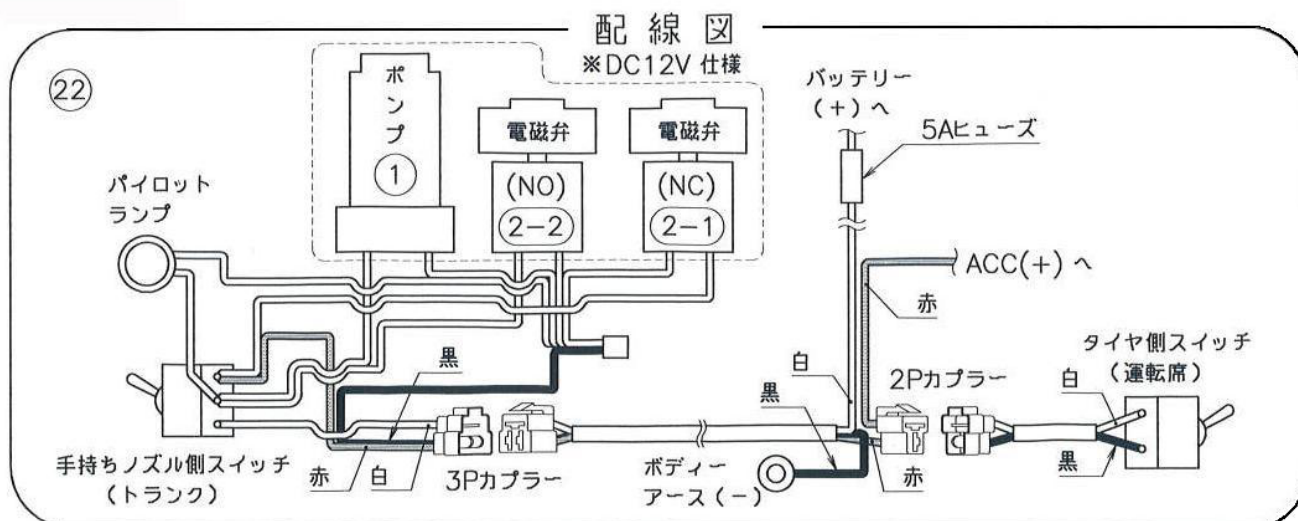
4-6 電気の配線

1. 電源(DC12V)は2箇所とる必要があります。
 - ①運転席スイッチ側の電源は、できるだけアクセサリ端子(ACC)から取ってください。
(車のエンジンキーを切った時、誤って本装置のスイッチが入った状態であっても電源が切れるように接続してください。)
 - ②手持ちノズル用スイッチ(タンク台に付いています)の電源は、常時通電の電源を取ったほうが本製品は使いやすいと思われます。

重 要

ポンプの空転はポンプの寿命を短くします

2. アースは車体から取ってください。
3. 配線は付属の結束バンドにて、車両の他の装置と干渉しないようにしっかりと固定してください。



寒冷地でご使用のお客様へ

薬液の凍結のおそれがある場合、本装置はご使用いただけません。

本装置を永くご使用いただくために、冬季間は下記の手順に従い、凍結防止の対策をしていただきますようお願いいたします。

凍結防止対策の手順

- ① 薬液の代わりに不凍液を入れ、数秒間噴射させ、配管内に不凍液を通します。
- ② 噴射ノズルを取り付け金具ごと取り外します(自動車のタイヤハウス内に出来るだけ突起が残らないように外してください)。
- ③ 噴射ノズルにつながるホースを適当な位置で外してください。(タケノコやネジ込み等、外しやすい場所で構いません。)
- ④ 外したホースの先端は、ゴミが入らないようにビニールテープ等で栓をしてください。その上でホースを束ねて車両本体にしっかりと固定してください。
- ⑤ 外したノズル等の部品はきれいに清掃して保管してください。

作業全般を通して、外した部品やホース等で車両の走行に支障が出ないように充分注意されますよう宜しくお願い致します。

東北海道いすゞ自動車株式会社 環境事業部
080-2460 帯広市西 20 条北 1 丁目 3 番 2 号
TEL (0155) 58-1211 FAX (0155) 58-1232

最終改訂: 2010 年 12 月
